



特集展
現代の天目
—伝統と創造

Featured Exhibition
Modern *Tenmoku*
—Tradition and Creativity

大阪市立東洋陶磁美術館
特集展
「現代の天目—伝統と創造」

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka
Featured Exhibition
“Modern *Tenmoku*—Tradition and Creativity”

ごあいさつ

特別展「天目—中国黒釉の美」に併せて開催される本特集展「現代の天目—伝統と創造」では、国内外の代表的な作家たちによる様々なアプローチの天目を紹介いたします。

曜変天目の復元の挑戦をはじめとして、天目を制作することは現代の作家たちにとっても極めて興味あるテーマのひとつであります。

当館所蔵品をはじめとした近現代の作家たちによる、伝統的な天目の再現作品や天目に触発された新たな創作、さらには漆工芸の粋を尽くした仿天目作品など、多種多様な天目作品、約30点をお楽しみください。

本展に貴重な作品をご出品いただいたご所蔵者の方々、ならびに関係各位から惜しみないご協力をいただいたことに心より御礼申し上げます。

大阪市立東洋陶磁美術館
館長 出川哲朗

Foreword

This Featured Exhibition “Modern *Tenmoku*—Tradition and Creativity”, held along with the Special Exhibition “Tenmoku—The Beauty of Chinese Black-Glazed Ware”, introduces various perspectives on *tenmoku* by leading modern artists both inside and outside Japan.

Creating *tenmoku* tea bowls, particularly reproducing the *yohen tenmoku*, has always been one of the extremely challenging, fascinating themes for present-day artists.

We hope you will enjoy a wide variety of *tenmoku* works by modern and contemporary artists, many of which are in the museum collection. The approximately 30 works on display include a reproduction of a traditional *tenmoku* tea bowl, an absolutely original work inspired by traditional *tenmoku* tea bowls and even a lacquerware imitating a *tenmoku* tea bowl, which is the culmination of lacquer craftsmanship.

I would like to express my sincere gratitude to the owners who generously lent their valuable works as well as to the various individuals and institutions for their unfailing support to make this exhibition possible.

Degawa Tetsuro
Director, The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

図版 Plates

凡例

1. 本デジタル図録は、大阪市立東洋陶磁美術館の特集展「現代の天目—伝統と創造」（2020年6月2日～11月8日）の出品作品（特別出品4点含む）31点を収録したものである。
2. 図版頁には、作品データを番号、作者名、作品名称、制作年代、寸法（高さをh、最大径をd、底径をbd、で表す）、重量で表す）、所蔵者の順に記載した。
3. 図版の番号は展示番号と一致するが、展示の順序とは必ずしも一致しない。

Notes

1. This digital catalog contains the illustrations of 31 works including 4 special exhibits from The Museum of Oriental Ceramics, Osaka (MOCO) displayed in the Featured Exhibition “Modern *Tenmoku*—Tradition and Creativity” (June 2–November 8, 2020) held in MOCO.
2. Each illustration is accompanied by the work’s data including the catalog number, artist, title, dates, size (h: maximum height, d: maximum diameter, bd: base diameter), weight, name of owner.
3. The catalog number correspond to those on the exhibition labels but not necessarily to the order of display in the exhibition.



1

板谷波山 (1872~1963)

天目茶盃 (てんもくちゃわん)

1926~44年頃

h:6.7cm、d:12.0cm、bd:3.7cm 243g

大阪市立東洋陶磁美術館 (木村貞政氏寄贈)

ITAYA Hazan (1872-1963)

TENMOKU CHAWAN

c.1926-44

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. KIMURA Sadamasa)







2

宇野宗甕 (1888~1973)
天目黒茶盃 (てんもくくろちゃわん)

1960~65年頃
h:6.4cm、d:13.1cm、bd:4.0cm 231g
大阪市立東洋陶磁美術館 (木村貞政氏寄贈)

UNO Soyo (1888-1973)
TENMOKU KURO CHAWAN
c.1960-65

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka
(Gift of Mr. KIMURA Sadamasa)







3

河井寛次郎 (1890~1966)

碗 窯變 (わん ようへん)

1960~65年頃

h:6.7cm、d:12.0cm、bd:3.7cm 377g

大阪市立東洋陶磁美術館 (木村貞政氏寄贈)

KAWAI Kanjiro (1890-1966)

WAN YOHEN

c.1933-41

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. KIMURA Sadamasa)





阮

憲變





4

清水卯一 (1926~2004)

蓬莱耀茶碗 (ほうらいようちゃわん)

1975~77年頃

h:6.8cm、d:14.0cm、bd:3.8cm 213g

大阪市立東洋陶磁美術館 (清水保孝氏寄贈)

SHIMIZU Uichi (1926~2004)

HORAIYO CHAWAN

c.1975-77

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. SHIMIZU Yasutaka)







5

清水卯一 (1926~2004)

白輪天目釉茶盃 (はくりんてんもくゆうちゃわん)

1955~60年頃

h:6.3cm、d:15.5cm、bd:4.9cm 293g

大阪市立東洋陶磁美術館 (木村貞政氏寄贈)

SHIMIZU Uichi (1926-2004)

HAKURIN TENMOKU-YU CHAWAN

c.1955-60

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. KIMURA Sadamasa)





6

久田重義 (1946~2001)

曜変天目茶碗 (ようへんてんもくちやわん)

1999~2001年頃

h:6.6cm、d:12.1cm、bd:3.9cm 236g

大阪市立東洋陶磁美術館 (木村貞政氏寄贈)

HISADA Shigeyoshi (1946–2001)

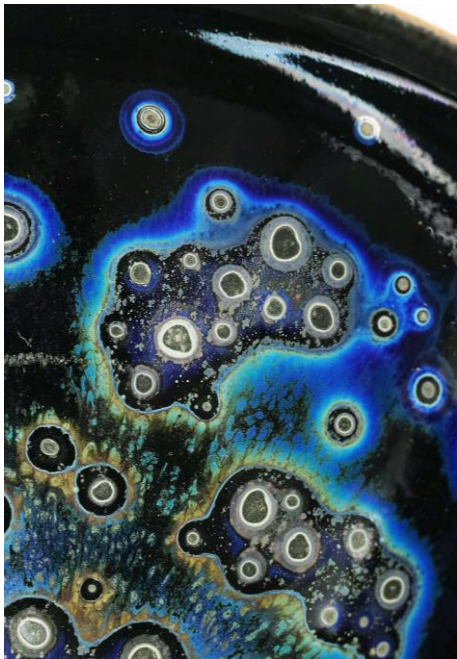
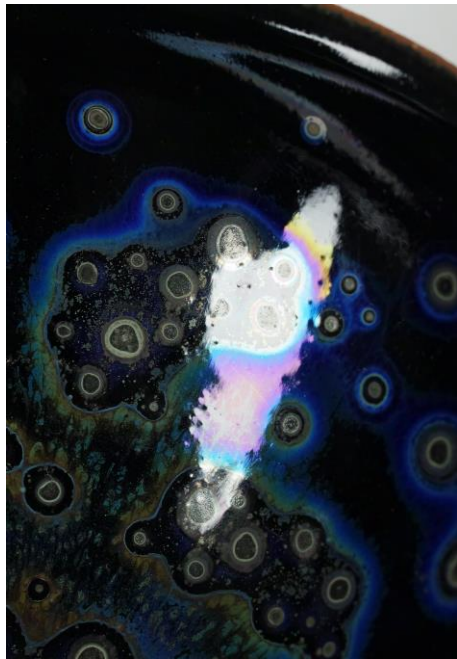
YOHEN TENMOKU CHAWAN

c.1999–2001

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. KIMURA Sadamasa)







7

桶谷寧 (1968～)

曜変天目茶碗 (ようへんてんもくちゃわん)

2020年

h:7.1cm、d:12.9cm、bd:4.2cm 261g

個人蔵

OKETANI Yasushi (1968－)

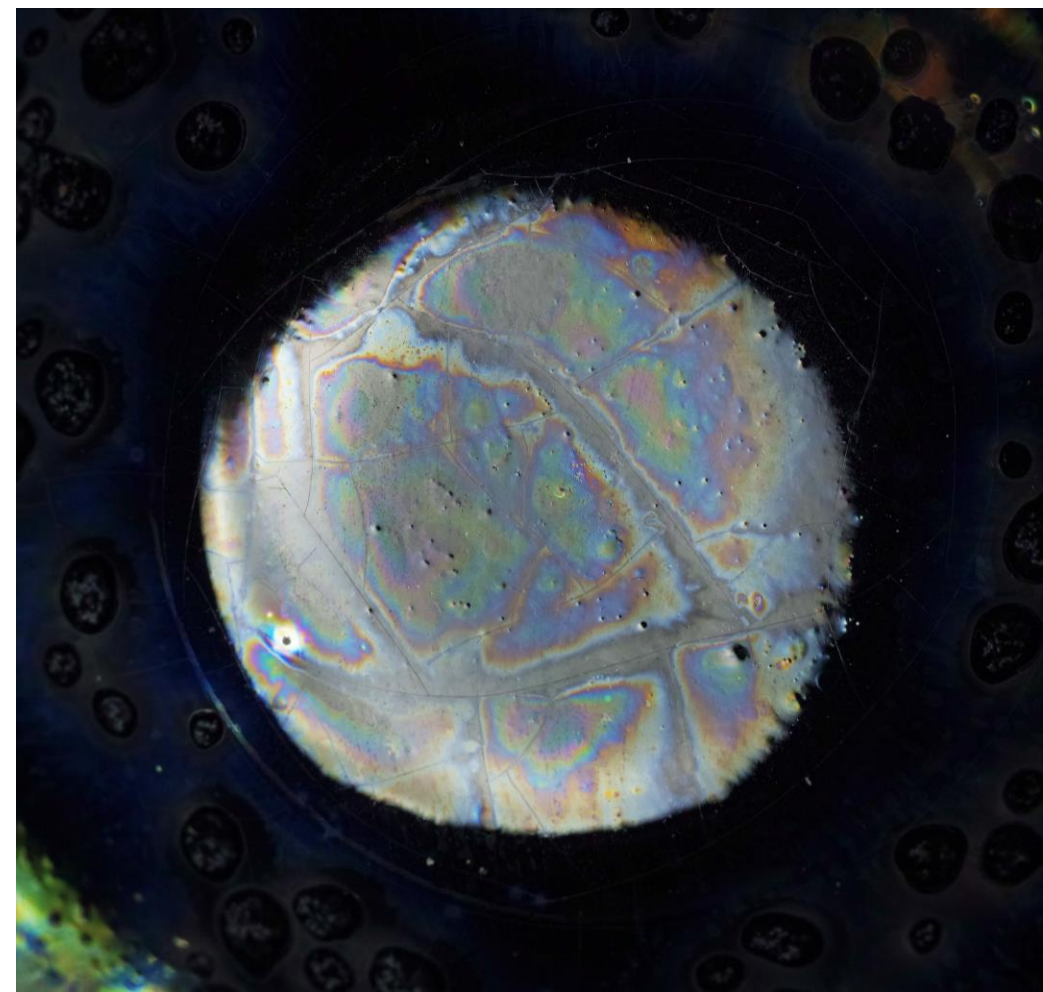
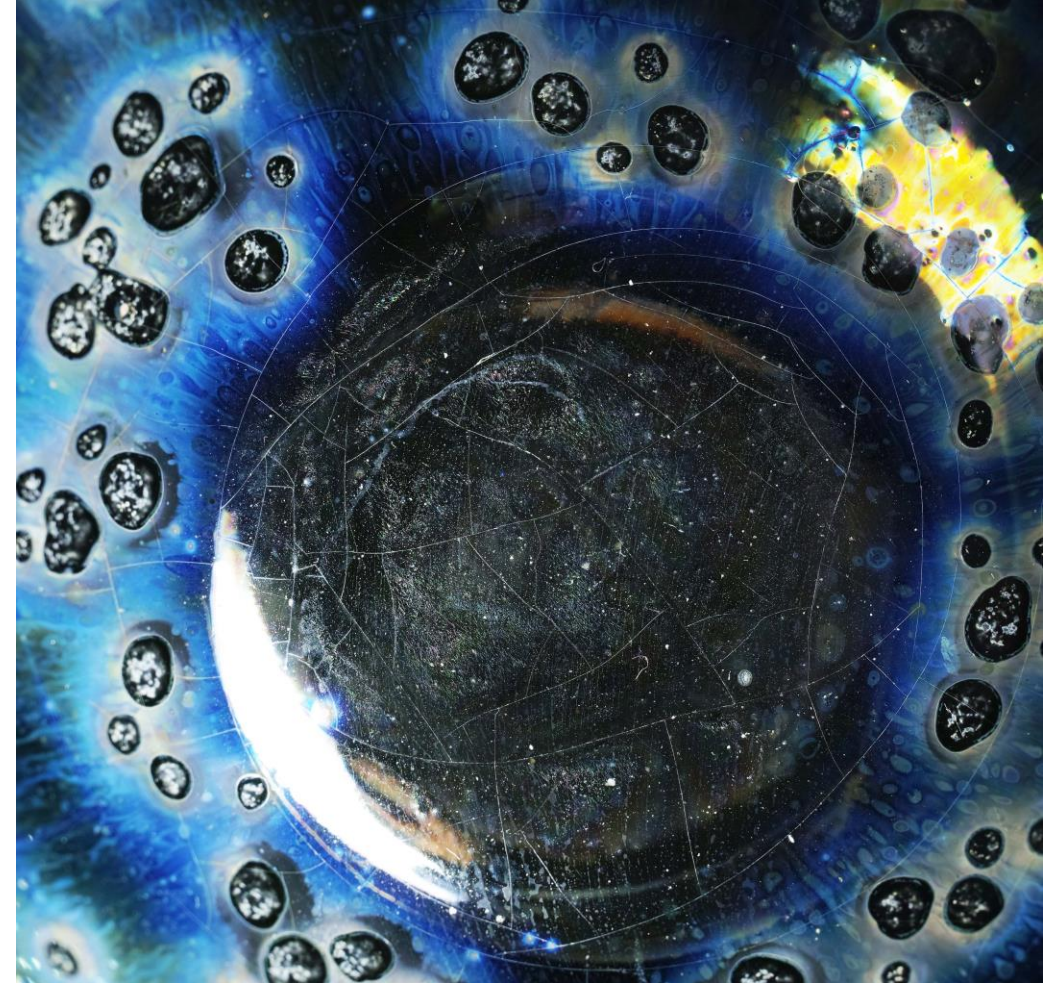
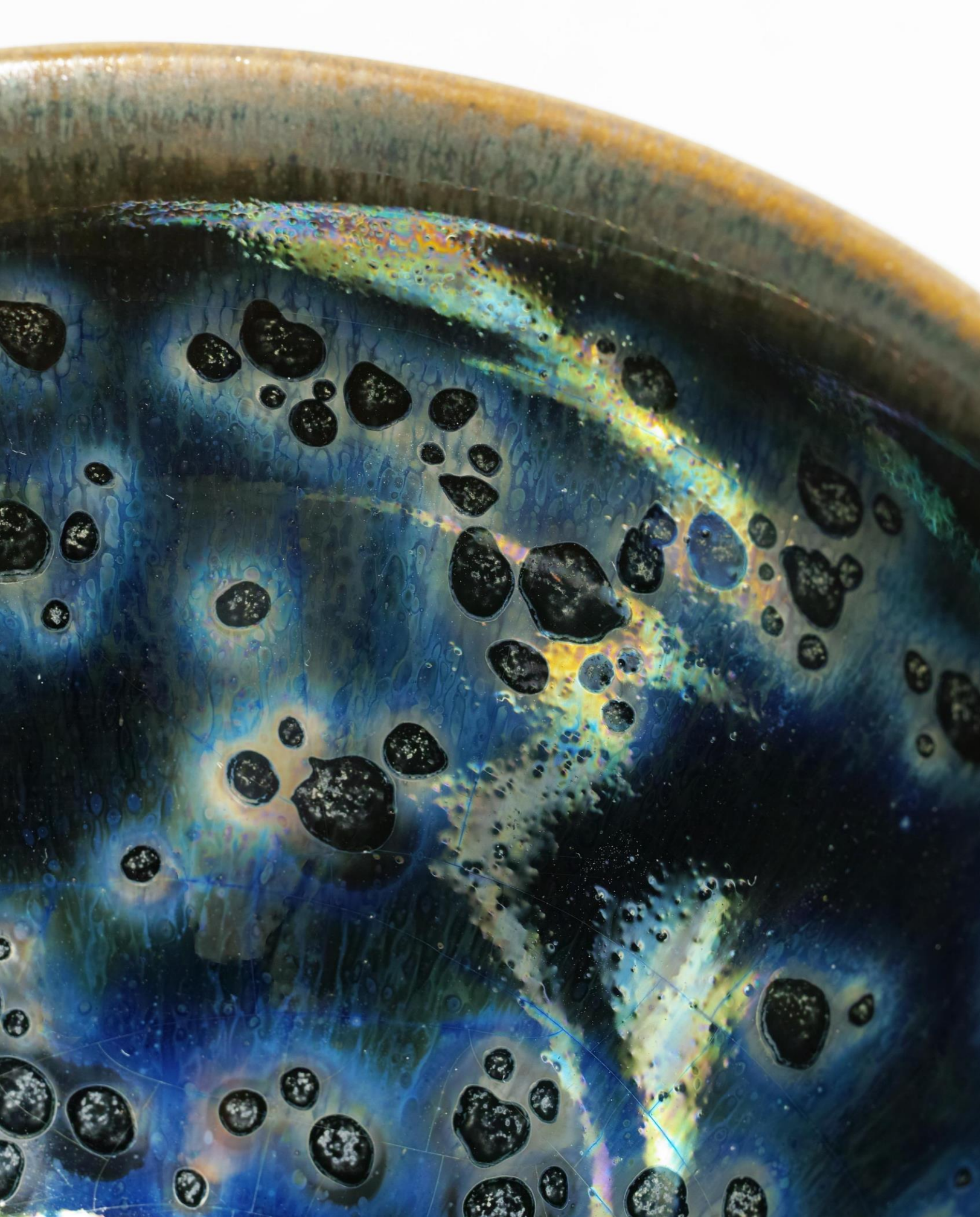
YOHEN TENMOKU CHAWAN

2020

Private Collection









8

桶谷寧 (1968～)

禾目天目茶碗 (のぎめてんもくちゃわん)

2020年

h:7.0cm、d:12.9cm、bd:4.2cm 270g

個人蔵

OKETANI Yasushi (1968－)

NOGIME TENMOKU CHAWAN

2020

Private Collection





9

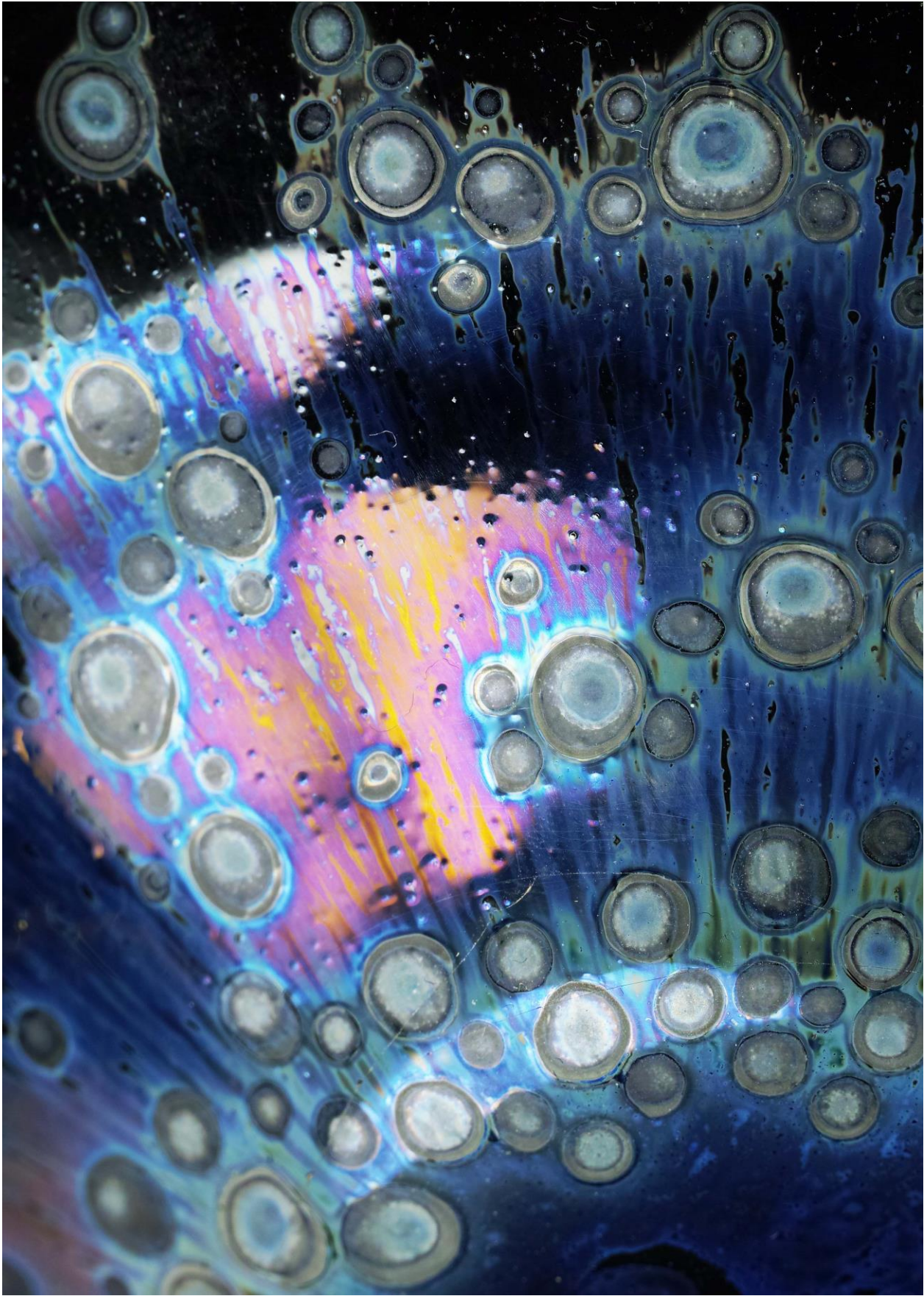
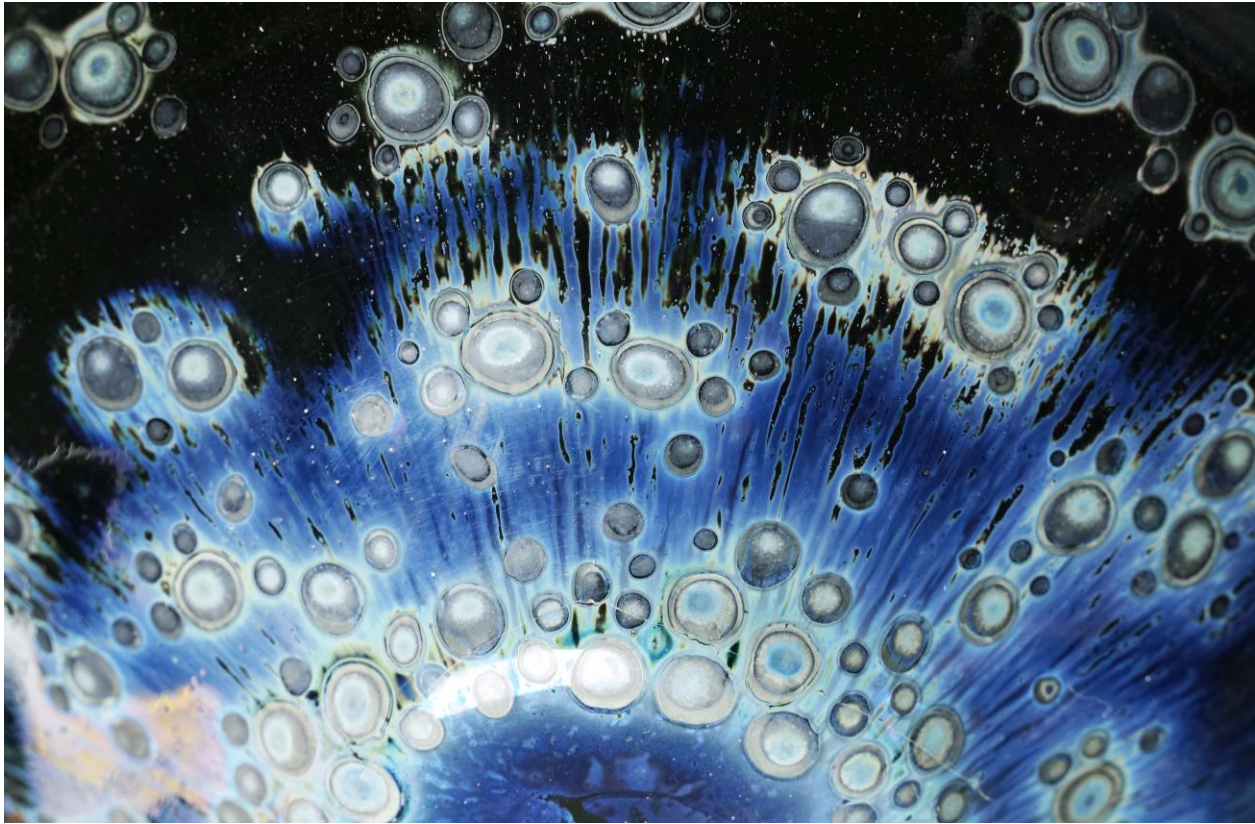
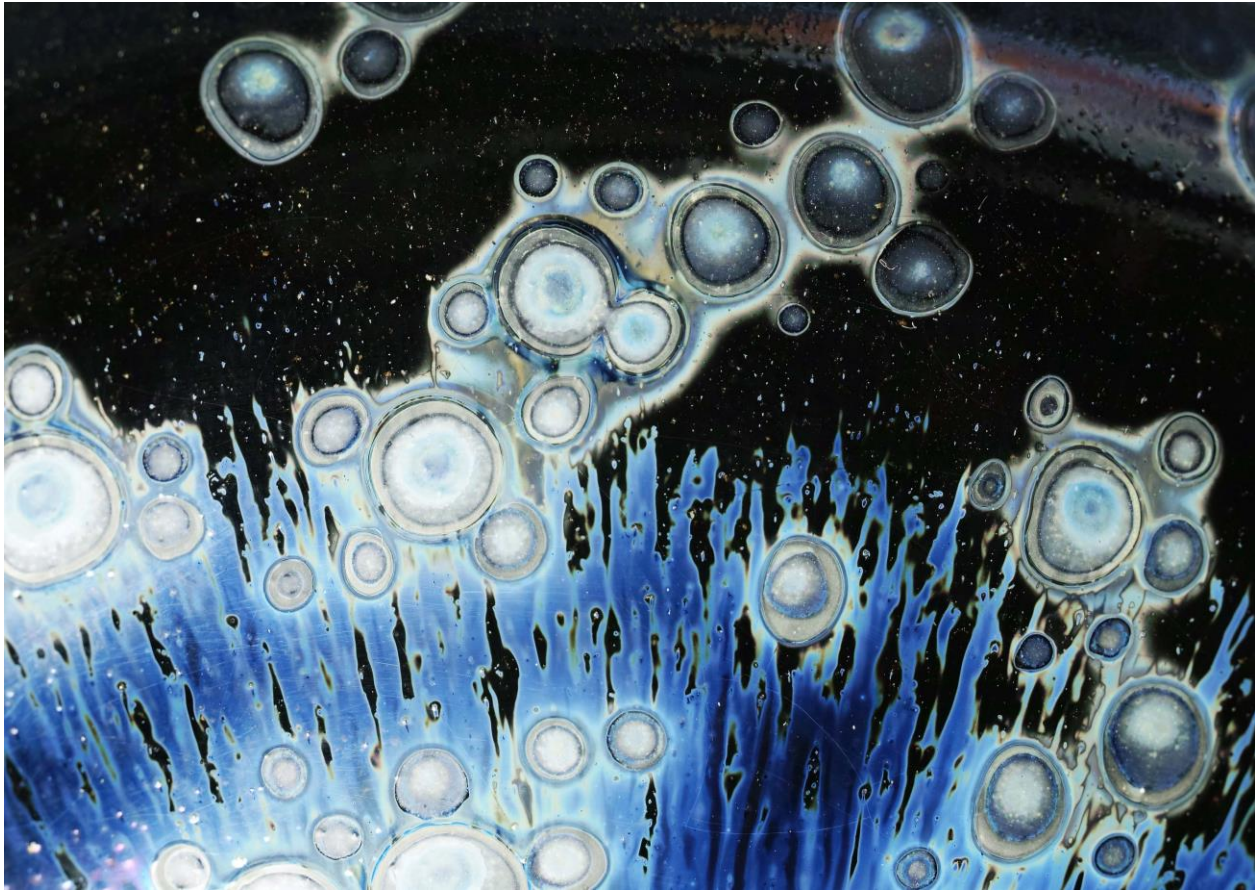
九代 長江惣吉 (1963~)
曜変 (ようへん)

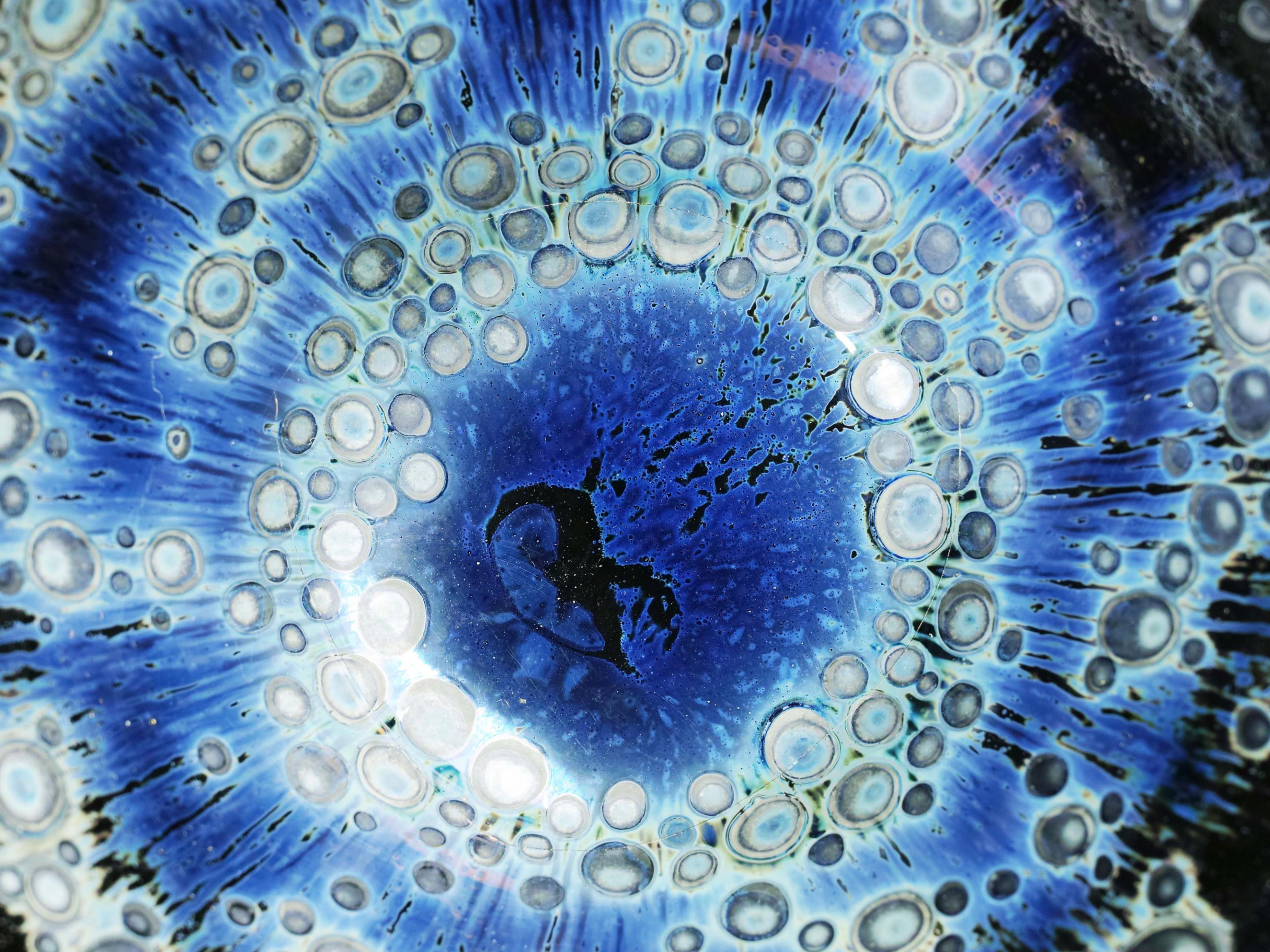
2006年
h:7.1cm、d:12.3cm、bd:3.8cm 246g
個人蔵

NAGAE Sokichi IX (1963-)
YOHEN
2006
Private Collection











瀬戸の陶芸家・長江惣吉氏は、父・八代長江惣吉（1929～1995）の曜変天目再現の研究を受け継ぎ、親子二代で曜変天目の「再現」に取り組んでいます。宋代建窯と同じ原料や焼成方法などによる宋時代の曜変天目の「再現」にこだわり、建窯窯址にもこれまでたびたび調査に訪れ、現地の粘土や釉薬の原料を採掘・輸入して用いています。長江氏はこれまでの自身の調査研究から、曜変の光彩（虹彩）が付近で産出する蛍石を用いた酸性ガスによる冷却段階における化学作用によるものと考え、その再現に応用しています。本作は2006年につくられたもので、長江氏の代表的な「曜変天目」としてたびたび紹介されていますが、自身は「再現」作品としての完成度には満足していません。本作には、宋時代の曜変天目の「再現」に徹底的にこだわり続ける長江氏の「曜変天目」への思いと、親子二代の夢が垣間見ることができます。（小林仁）



10

九代 長江惣吉 (1963～)

曜々盞 (ようようさん)

2020年

h:6.8cm、d:12.3cm、bd:3.8cm 253g

個人蔵

NAGAE Sokichi IX (1963－)

YOYOSAN

2020

Private Collection







曜変天目再現研究の研究者としても国内外で活躍している長江氏は、これまでのその研究成果を踏まえた知識と技術を応用して、美しい虹色の光彩を活かした独自の作品を創作しました。それがこの「曜々盞」です。曜変天目の再現研究の副産物といえるものです。（小林仁）

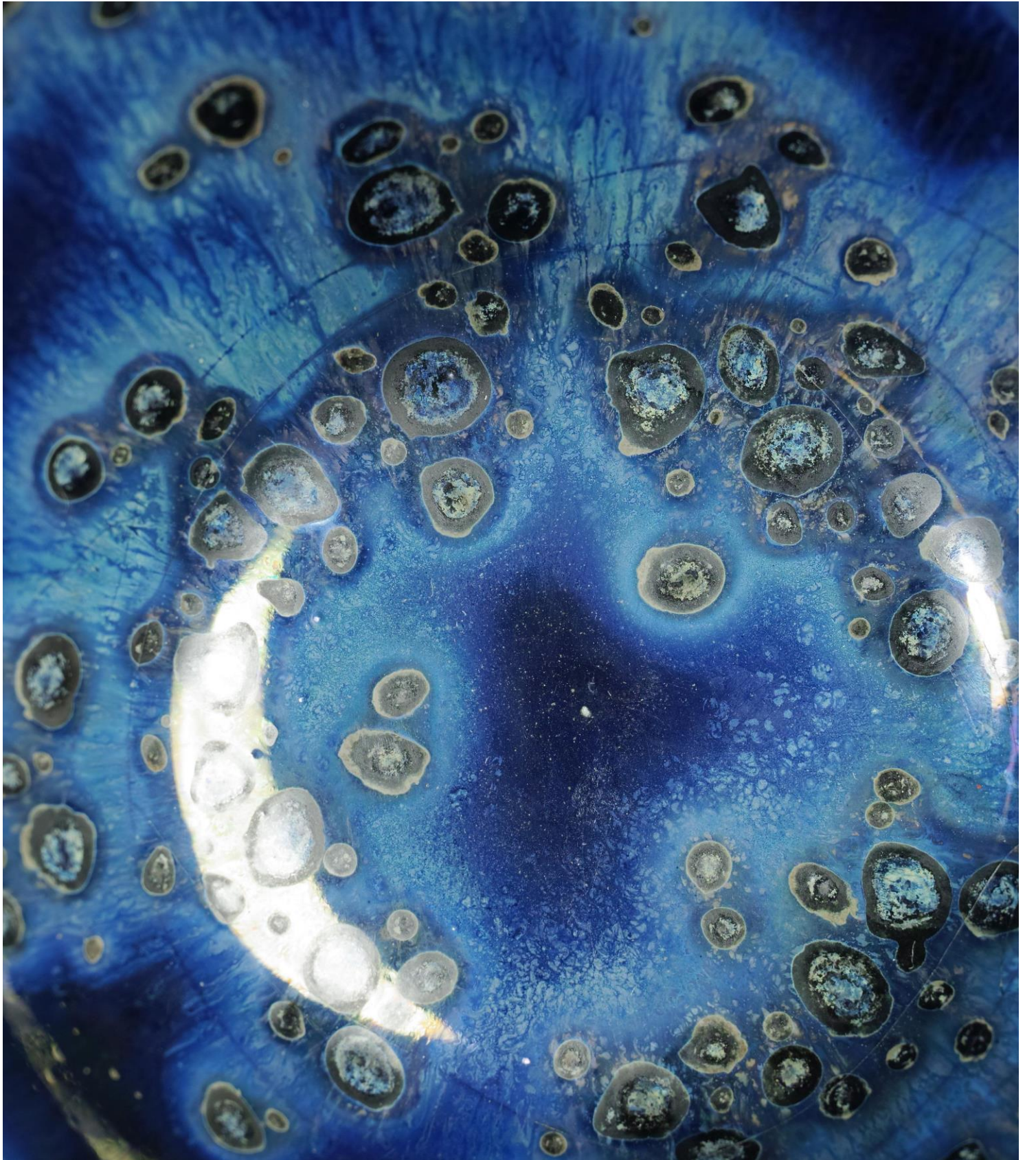
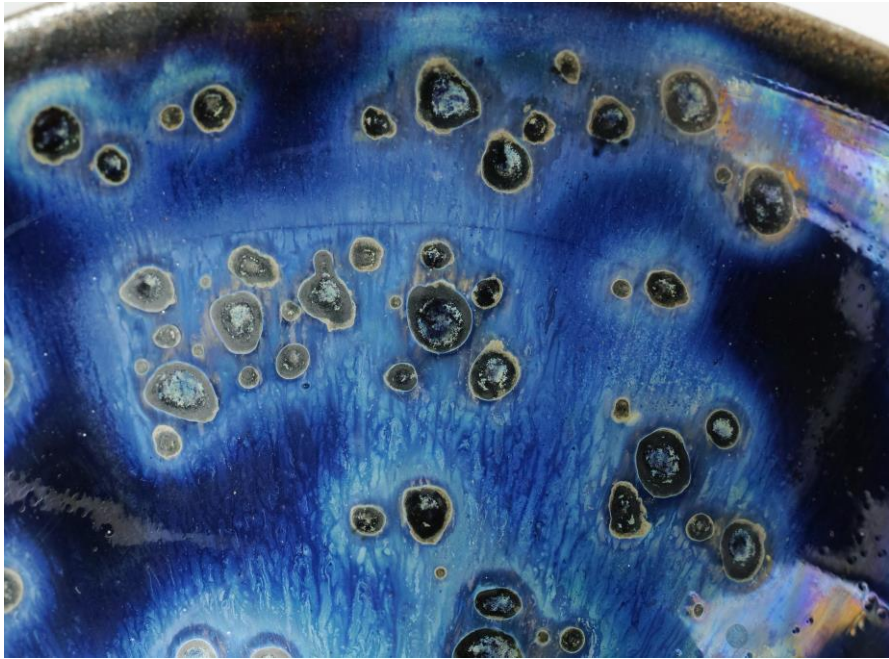


11
瀬戸毅己 (1958～)
曜変天目 (ようへんてんもく)

2020年
h:7.0cm、d:12.1cm、bd:3.7cm 243g
個人蔵

SETO Takemi (1958-)
YOHEN TENMOKU
2020
Private Collection







12

笹岡基三 (1936~2019)

木の葉天目茶碗 (このはてんもくちゃわん)

1974年

h:5.7cm、d:14.4cm、bd:3.2cm 145g

大阪市立東洋陶磁美術館 (笹岡禮子氏寄贈)

SASAOKA Motozo (1936–2019)

KONOHATA TENMOKU CHAWAN

1974

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Ms. SASAOKA Reiko)







13

笹岡基三 (1936~2019)

金彩木の葉天目茶碗 (きんさいこのはてんもくちゃわん)

1973年

h:5.7cm、d:15.3cm、bd:3.3cm 162g

大阪市立東洋陶磁美術館 (笹岡禮子氏寄贈)

SASAOKA Motozo (1936–2019)

KINSAI KONOHA TENMOKU CHAWAN

1973

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Ms. SASAOKA Reiko)







14

笹岡基三 (1936~2019)

紫紅釉木の葉天目茶碗 (しこうゆうこのはてんもくちゃわん)

1981年

h:6.2cm、d:13.2cm、bd:4.0cm 205g

大阪市立東洋陶磁美術館 (笹岡禮子氏寄贈)

SASAKA Motozo (1936–2019)

SHIKOYU KONOHA TENMOKU CHAWAN

1981

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Ms. SASAKA Reiko)





15

笹岡基三 (1936～2019)

紅釉木の葉天目茶碗 (こうゆうこのはてんもくちゃわん)

1983年

h:5.2cm、d:15.1cm、bd:3.8cm 208g

大阪市立東洋陶磁美術館 (笹岡禮子氏寄贈)

SASAOKA Motozo (1936–2019)

KOYU KONOHA TENMOKU CHAWAN

1983

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Ms. SASAOKA Reiko)





笹岡基三氏は三重県四日市の萬古（ばんこ）焼の名工・初代笹岡春山（1893～1965）の次男として生まれました。15歳で家業の手捻（びね）りの萬古焼の急須づくりなどに従事するようになりました。その後31歳で独立して、中国陶磁の研究と再現・創作に取り組むようになり、青磁や白磁、天目、紅釉、紫紅釉など多彩な釉薬技術と繊細な造形感覚の作品を多数生み出しました。なかでも30歳の頃に重要文化財「木葉天目」に出会った笹岡氏は、研究と実験を重ね、独自の「木の葉天目茶碗」を完成させました。近隣の山で採取した木の葉は枯れかかって落ちる寸前の状態のものを扱い、施釉して十分に乾燥させた木の葉を置いて焼くというシンプルなつくりで木葉天目の技法を見事に再現しています。晩年、大病を患いながらも、重要文化財「木葉天目」に金彩の痕跡があると聞いた笹岡氏は、焼成した木の葉天目にグラインダーで文様を削ってから金彩を施した「金彩木の葉天目」を生み出しました。さらに、曜変天目の研究に心血を注ぐなど作陶にかける旺盛な研究意欲は衰えることはありませんでした。ここに展示している笹岡氏の魅力あふれる「木の葉天目茶碗」4点からは、中国陶磁に魅せられ、その半生を地道な研究・作陶に打ち込んできた氏の実直で、強い意思をもった人柄がうかがえます。（小林仁）

※笹岡基三氏は2019年12月にご逝去されました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



16

ジャン・ジレル (1947～)

IRIDESCENT TENMOKU

2016年

h:6.7cm、d:12.1cm、bd:4.0cm 254g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

Jean Girel (1947～)

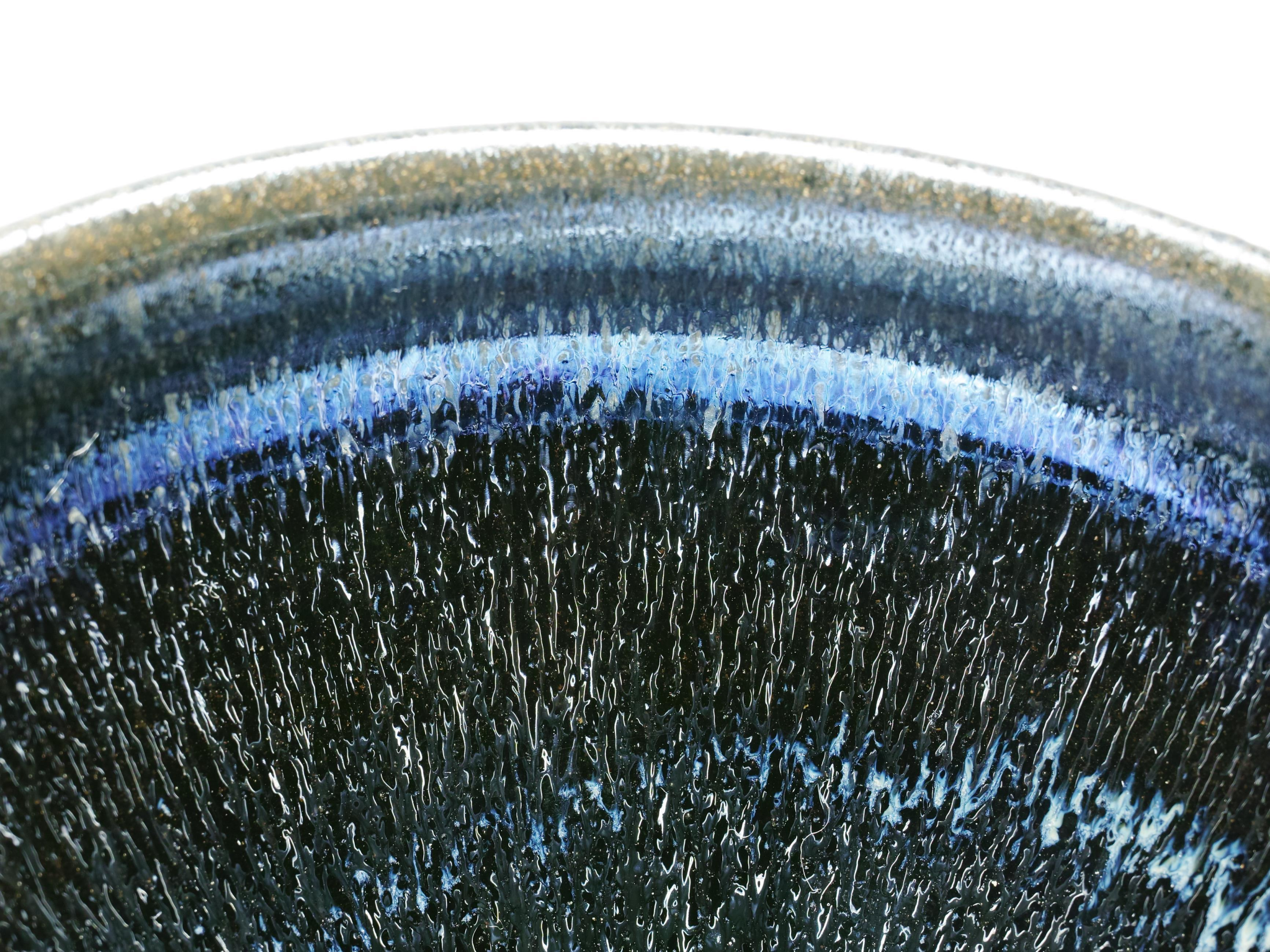
IRIDESCENT TENMOKU

2016

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)







ジャン・ジレル氏は、フランスで唯一の陶芸の人間国宝（メートル・ダールMaître d'Art）に認定されているフランスを代表する陶芸家です。「Iridescent Tenmoku」、すなわち「虹色（玉虫色）の天目」と名づけられた本作は、茶碗の内外に黒釉上に禾目状の斑文が表れ、さらに全体に青や紫などの美しい光彩のグラデーションが生じています。若き頃、中国宋時代のやきものに魅せられたジレル氏は40年以上にわたり独自の天目を探求し、東洋の伝統と西洋の技術・感性が見事に融和した新たな天目を生み出しました。今回、初公開となります。（小林仁）

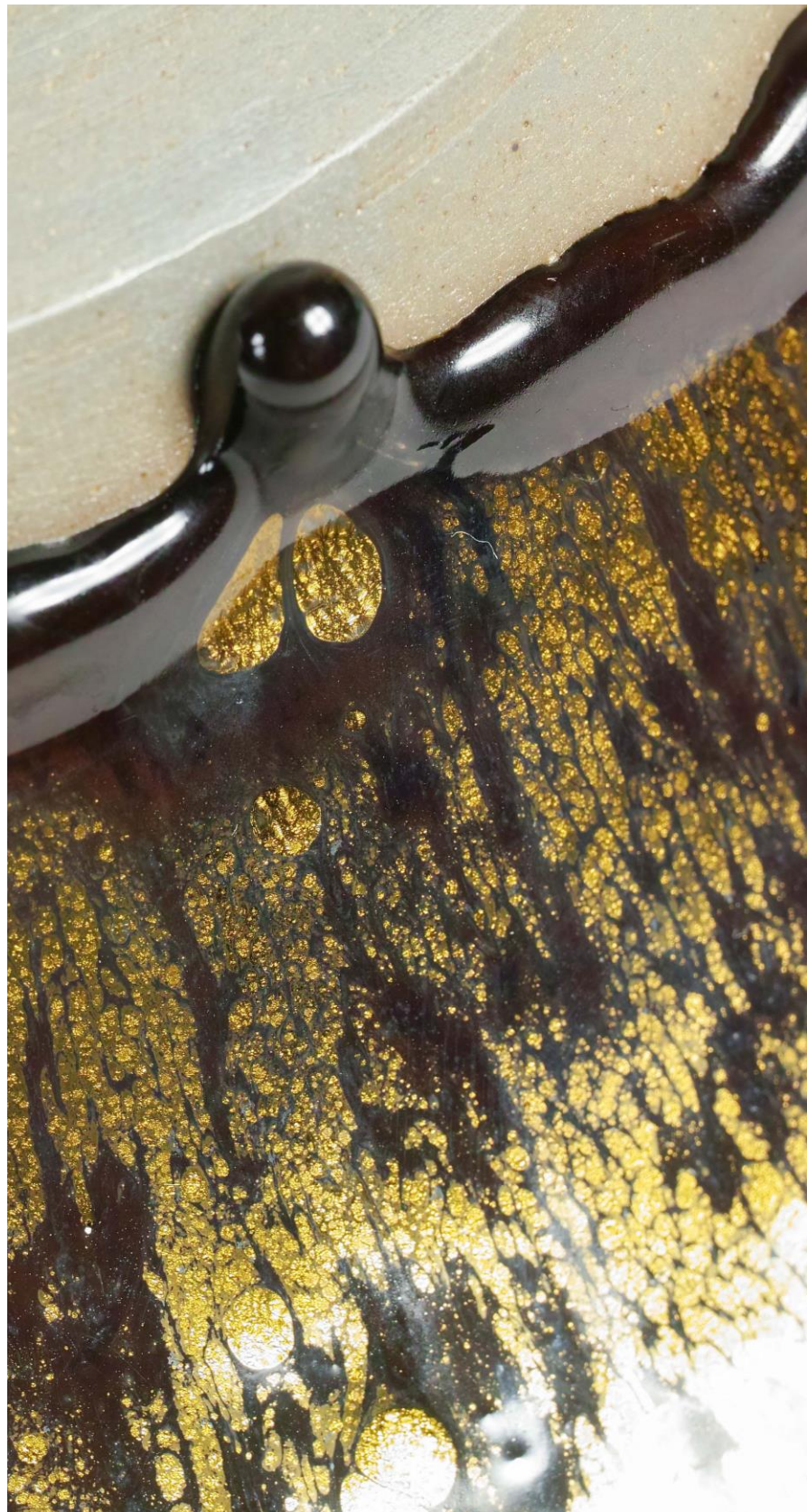
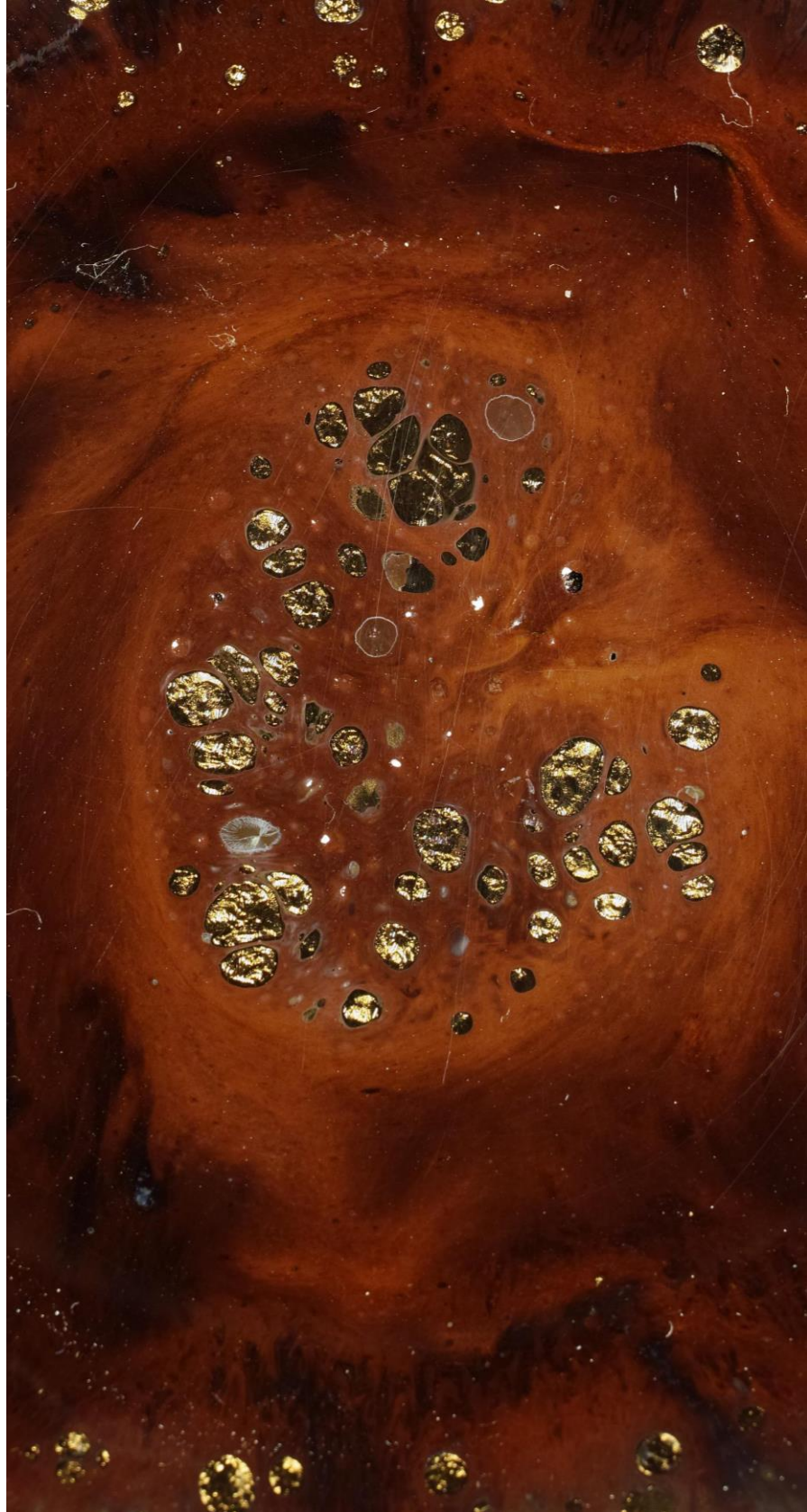
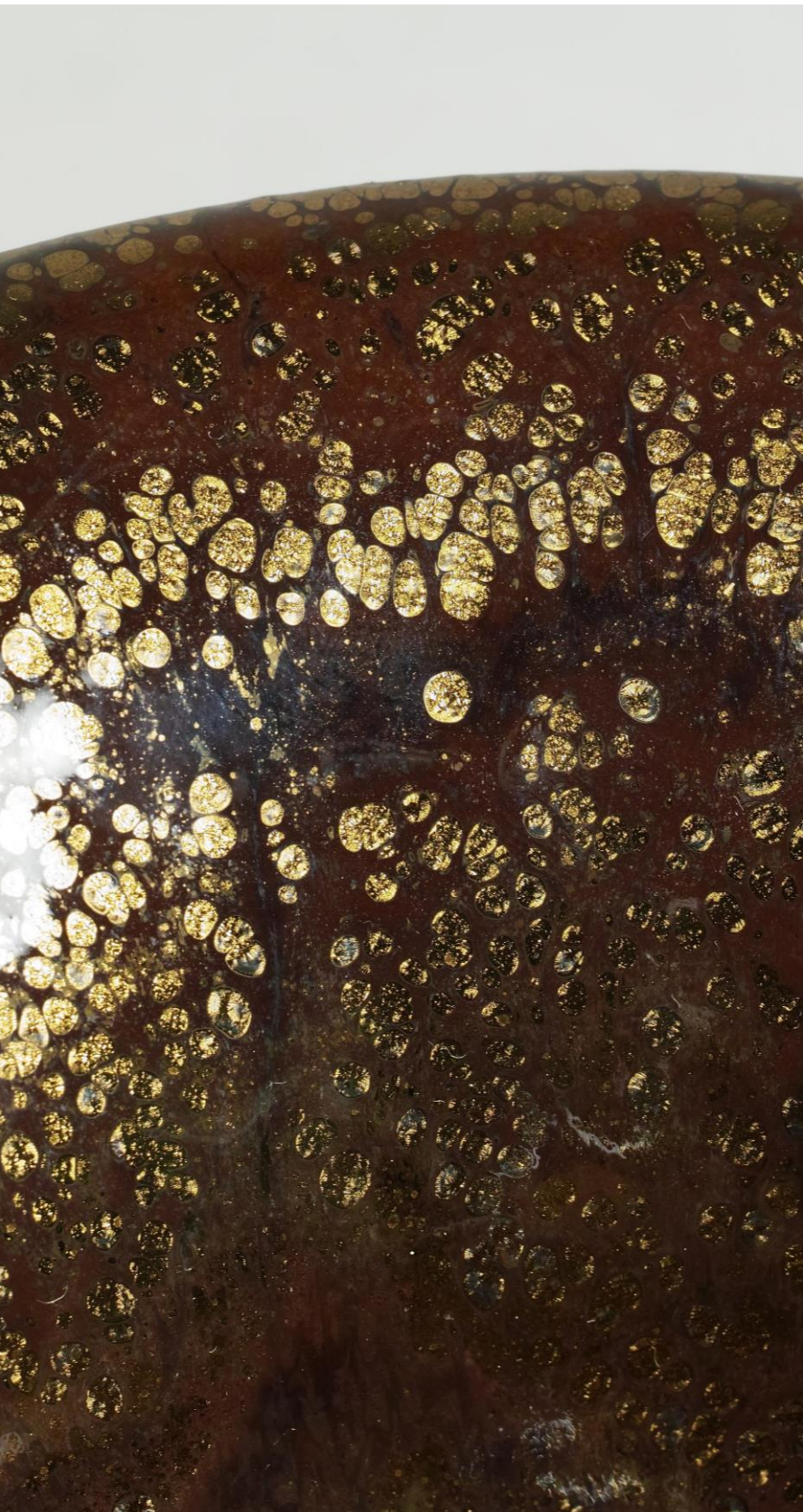


17
黄美金 (1956～)
金油滴建盞 (きんゆてきけんさん)

2016年
h:7.1cm、d:24.5cm、bd:8.5cm 1,728g
大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

HUANG Meijin (1956～)
KIN-YUTEKI KENSAN
2016
The Museum of Oriental Ceramics, Osaka
(Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)







18
 黄文勇 (1981~)
 金油滴建盞 (きんゆてきけんさん)

2016年
 h:4.9cm、d:11.6cm、bd:3.5cm 230g
 大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

HUANG Wenyong (1981-)
KIN-YUTEKI KENSAN
 2016

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka
 (Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)





19

陸金喜 (1972~)

曜変天目 (ようへんてんもく)

2016年

h:6.8cm、d:13.0cm、bd:4.6cm 376g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

LU Jinxi (1972-)

YOHEN TENMOKU

2016

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)







20
 陸金喜 (1972～)
 油滴天目 (「東洋」銘) (ゆてきてんもく 「とうよう」めい)

2016年
 h:7.2cm、d:12.7cm、bd:4.0cm 361g
 大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

LU Jinxi (1972–)
YUTEKI TENMOKU, with inscription TOYO
 2016
 The Museum of Oriental Ceramics, Osaka
 (Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)





21

陳旭 (1984~)

七彩仏光天目盞 (しちさいぶっこうてんもくさん)

2017年

h:7.4cm、d:13.0cm、bd:4.0cm 351g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

Chen Xu (1984-)

SHICHISAI BUKKO(QICAI FOGUANG) TENMOKU SAN

2017

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)





22

陳旭 (1984~)

七彩仏光天目蓋 (しちさいぶっこうてんもくさん)

2017年

h:7.5cm、d:13.0cm、bd:4.0cm 318g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

Chen Xu (1984-)

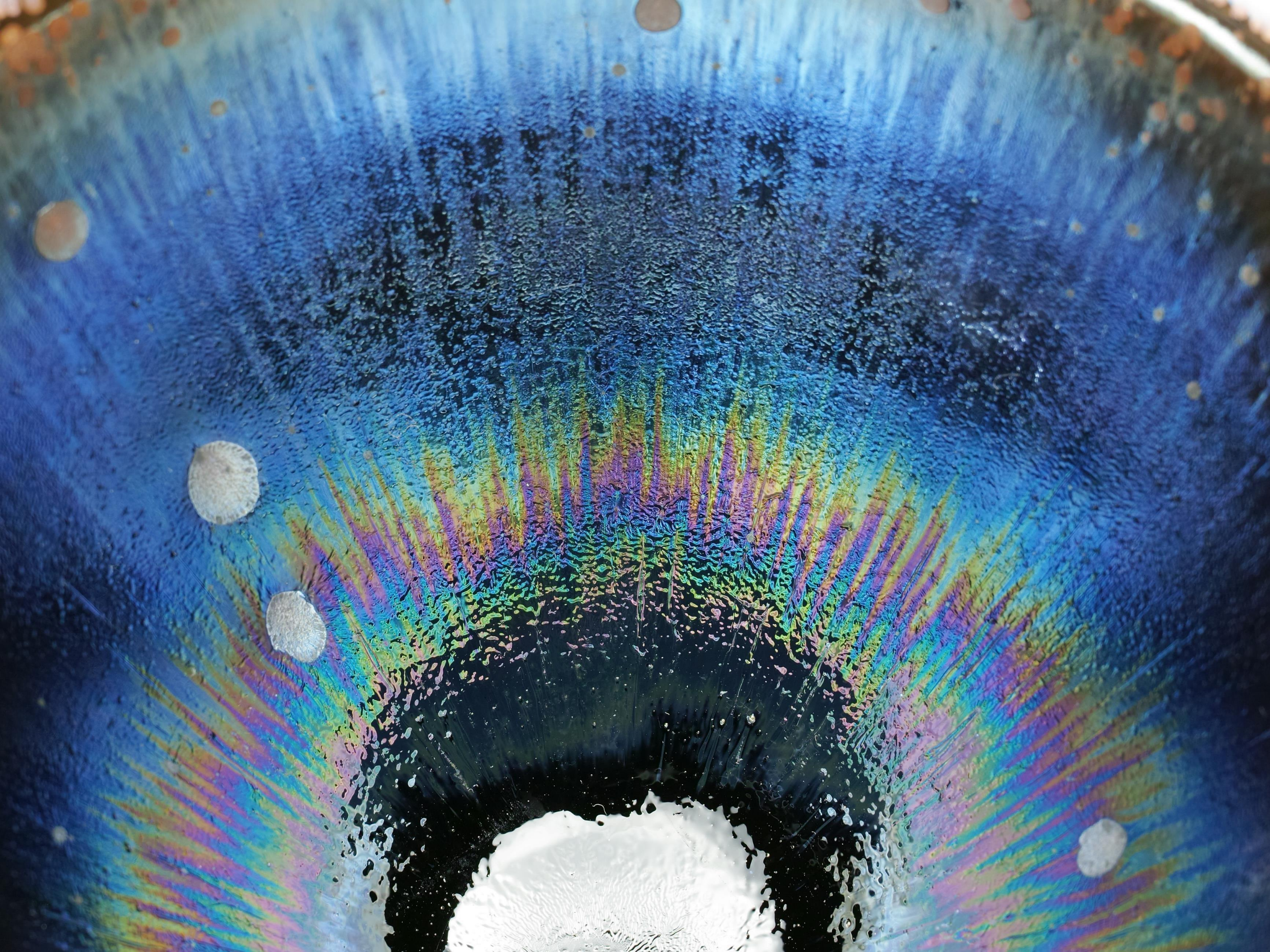
SHICHISAI BUKKO(QICAI FOGUANG) TENMOKU SAN

2017

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka
(Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)









23

李春和 (1956~)

油滴天目 (ゆてきてんもく)

2016年

h:7.2cm、d:11.9cm、bd:4.7cm 305g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

LI Chunhe (1956-)

YUTEKI TENMOKU

2016

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)





24

李春和 (1956～)

活彩太極天目 (かっさいたいきょくてんもく)

2017年

h:7.7cm、d:10.8cm、bd:7.0cm 447g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

LI Chunhe (1956-)

KASSAI TAIKYOKU (HUOCAI TAIJI) TENMOKU

2017

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

(Gift of Mr. NGIAM Thong Kin)







25

彦十蒔絵・若宮隆志 (1964～)

見立漆器 油滴天目 (みたてしっき ゆてきてんもく)

2020年

h:7.5cm、d12.1:cm、bd:4.2cm 78g

個人蔵

Hikoju Makie by WAKAMIYA Takashi (1964－)

LACQUER BOWL LIKENED TO YUTEKI TENMOKU

2020

Private Collection







当館の国宝「油滴天目」を漆器で再現した作品です。「見立漆器」の名が付けられています。

「見立（見立て）」とは、あるものを別の似たものでなぞらえることで、江戸時代の芸術や芸能、文学などで盛んに行われた趣向でもありました。彦十蒔絵の若宮隆志氏は漆芸技法を用いて天目などの陶磁器や青銅器など異なる材質の「見立」に果敢に取り組んでいます。本作では、軽くて丈夫な櫟（けやき）の木地を「天目形」に成形してから、漆を塗り、色漆や蒔絵の技法を駆使して、油滴の斑文や釉薬の質感から微妙な光彩の色合い、そして底部の胎土の質感まで見事になぞらえています。口縁部の金覆輪も漆と金粉によるものです。実際、手にとると驚くほど軽く、漆器であることが体感でき、喫茶碗として実用にも十分に耐えるものです。外観は油滴天目ですが、手に撮った瞬間の驚きこそ、「見立漆器」の真髄です。なお、内面にはハート状の斑文をまぎれ込ませているのも作者の遊び心といえます。「ハート斑文」を見つけられた方にはさらなる幸運が訪れるかもしれません。ぜひ探してみてください。（小林仁）



26

彦十蒔絵・若宮隆志 (1964~)

見立漆器 木葉天目 (みたてしっき このはてんもく)

2020年

h:5.4cm、d:14.7cm、bd:3.4cm 64g

個人蔵

Hikoju Makie by WAKAMIYA Takashi (1964-)

LACQUER BOWL LIKENED TO KONOHA TENMOKU

2020

Private Collection







27

藤澤秀行 (1972~)

曜変天竺 (ようへんてんもく)

2019年

h:7.3cm、d:12.2cm、bd:3.8cm 76g

個人蔵

FUJISAWA Hideyuki (1972-)

YOHEN TENMOKU

Mother-of-Pearl Lacquerware (Horse Chestnut with Tiger Stripes and Abalone Shells)

2020

Private Collection









大阪在住の漆芸家・藤澤秀行氏は、漆器による樂茶碗の制作で知られています。陶器と見まがうばかりの「漆の樂茶碗」で独自の世界を切り開いた藤澤氏が近年取り組んでいるのが漆器による曜変天目です。曜変の光彩が構造色であることに着目した藤澤氏は、同じ構造色による虹色の発色を見せる鮑貝の内側部分を薄く研磨し板状にしたものを、さらに曜変の斑文のようにリング状に焼き切り、それを漆器の表面にはめ込む「螺鈿（らでん）」の技法で曜変に挑みました。斑文の周囲には極小の貝片を散りばめ、光彩を表現しています。また、素地となる木材にもこだわり、「虎杓（とらもく）」と呼ばれる虎模様の生じた柟の木を用いて、碗の外面はその模様をそのまま活かしています。作品名称の「曜変天杓」は、漆芸家としての曜変天目へのこだわりがうかがえます。螺鈿による斑文や光彩は曜変天目と同様、永遠の輝きを見せています。（小林仁）



特別出品1

彦十蒔絵・若宮隆志 (1964～)

見立漆器 曜変天目 (みたてしっき ようへんてんもく)

2020年

h:7.2cm、d:12.2cm、bd:3.6cm 65g

個人蔵

Hikoju Makie by WAKAMIYA Takashi (1964-)

LACQUER BOWL LIKENED TO YOHEN TENMOKU

2020

Private Collection







特別出品2

彦十蒔絵・若宮隆志（1964～）

見立漆器 曜変天目（みたてしっき ようへんてんもく）

2020年

h:6.9cm、d:12.5cm、bd3.6:cm 44g

個人蔵

Hikoju Makie by WAKAMIYA Takashi (1964–)

LACQUER BOWL LIKENED TO YOHEN TENMOKU

2020

Private Collection





特別出品3

彦十蒔絵・若宮隆志（1964～）

見立漆器 曜変天目（みたてしっき ようへんてんもく）

2020年

h:6.4cm、d:12.1cm、bd:3.4cm 64g

個人蔵

Hikoju Makie by WAKAMIYA Takashi (1964–)

LACQUER BOWL LIKENED TO YOHEN TENMOKU

2020

Private Collection





特別出品4

藤澤秀行 (1972～)

曜変天杓 (ようへんてんもく)

螺鈿漆器 (黒檀杓材、ニュージーランド貝等)

2020年

h:6.4cm、d:12.1cm、bd:3.4cm 132g

個人蔵

FUJISAWA Hideyuki (1972-)

YOHEN TENMOKU

Mother-of-Pearl Lacquerware (Ebony, New Zealand Paua Shells and Other Materials)

2020

Private Collection



出品リスト List of Works

[凡例] h:高さ、d:最大径、 bd:底径、 重さ

1
板谷波山（1872～1963）
てんもくちゃわん
天目茶盃
TENMOKU CHAWAN
1926～44年頃
h:6.7cm、d:12.0cm、bd:3.7cm 243g
大阪市立東洋陶磁美術館（木村貞政氏寄贈）

2
宇野宗甕（1888～1973）
てんもくくろちゃわん
天目黒茶盃
TENMOKU KURO CHAWAN
1960～65年頃
h:6.4cm、d:13.1cm、bd:4.0cm 231g
大阪市立東洋陶磁美術館（木村貞政氏寄贈）

3
河井寛次郎（1890～1966）
わん ようへん
碗 窯變
WAN YOHEN
1933～41年頃
h:8.1cm、d:15.5cm、bd:5.6cm 377g
大阪市立東洋陶磁美術館（木村貞政氏寄贈）

4
清水卯一（1926～2004）
ほうらいようちゃわん
蓬萊耀茶碗
HORAIYO CHAWAN
1975～77年頃
h:6.8cm、d:14.0cm、bd:3.8cm 213g
大阪市立東洋陶磁美術館（清水保孝氏寄贈）

5
清水卯一（1926～2004）
はくりんてんもくゆうちゃわん
白輪天目釉茶盃
HAKURIN TENMOKU-YU CHAWAN
1955～60年頃
h:6.3cm、d:15.5cm、bd:4.9cm 293g
大阪市立東洋陶磁美術館（木村貞政氏寄贈）

6
久田重義（1946～2001）
ようへんてんもくちゃわん
曜変天目茶盃
YOHEN TENMOKU CHAWAN
1999～2001年頃
h:6.6cm、d:12.1cm、bd:3.9cm 236g
大阪市立東洋陶磁美術館（木村貞政氏寄贈）

7
桶谷寧（1968～）
ようへんてんもくちゃわん
曜変天目茶碗
YOHEN TENMOKU CHAWAN
2020年
h:7.1cm、d:12.9cm、bd:4.2cm 261g
個人蔵

8
桶谷寧（1968～）
のぎめてんもくちゃわん
禾目天目茶碗
NOGIME TENMOKU CHAWAN
2020年
h:7.0cm、d:12.9cm、bd:4.2cm 270g
個人蔵

9
九代 長江惣吉（1963～）
ようへん
曜変
YOHEN
2006年
h:7.1cm、d:12.3cm、bd:3.8cm 246g
個人蔵

出品リスト List of Works

[凡例] h:高さ、d:最大径、bd:底径、重さ

10

九代 長江惣吉 (1963～)

ようようさん

曜々盞

YOYOSAN

2020年

h:6.8cm、d:12.3cm、bd:3.8cm 253g

個人蔵

11

瀬戸毅己 (1958～)

ようへんてんもく

曜変天目

YOHEN TENMOKU

2020年

h:7.0cm、d:12.1cm、bd:3.7cm 243g

個人蔵

12

笹岡基三 (1936～2019)

このはてんもくちゃわん

木の葉天目茶碗

KONOHHA TENMOKU CHAWAN

1974年

h:5.7cm、d:14.4cm、bd:3.2cm 145g

大阪市立東洋陶磁美術館 (笹岡禮子氏寄贈)

13

笹岡基三 (1936～2019)

きんさいこのはてんもくちゃわん

金彩木の葉天目茶碗

KINSAI KONOHA TENMOKU CHAWAN

1973年

h:5.7cm、d:15.3cm、bd:3.3cm 162g

大阪市立東洋陶磁美術館 (笹岡禮子氏寄贈)

14

笹岡基三 (1936～2019)

しこうゆうこのはてんもくちゃわん

紫紅釉木の葉天目茶碗

SHIKOYU KONOHA TENMOKU CHAWAN

1981年

h:6.2cm、d:13.2cm、bd:4.0cm 205g

大阪市立東洋陶磁美術館 (笹岡禮子氏寄贈)

15

笹岡基三 (1936～2019)

こうゆうこのはてんもくちゃわん

紅釉木の葉天目茶碗

KOYU KONOHA TENMOKU CHAWAN

1983年

h:5.2cm、d:15.1cm、bd:3.8cm 208g

大阪市立東洋陶磁美術館 (笹岡禮子氏寄贈)

16

ジャン・ジレル (1947～)

IRIDESCENT TENMOKU

2016年

h:6.7cm、d:12.1cm、bd:4.0cm 254g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

17

黄美金 (1956～)

きんゆてきけんさん

金油滴建盞

KIN-YUTEKI KENSAN

2016年

h:7.1cm、d:24.5cm、bd:8.5cm 1,728g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

18

黄文勇 (1981～)

きんゆてきけんさん

金油滴建盞

KIN-YUTEKI KENSAN

2016年

h:4.9cm、d:11.6cm、bd:3.5cm 230g

大阪市立東洋陶磁美術館 (Ngiam Thong Kin氏寄贈)

出品リスト List of Works

[凡例] h:高さ、d:最大径、 bd:底径、 重さ

19

陸金喜（1972～）

ようへんてんもく

曜変天目

YOHEN TENMOKU

2016年

h:6.8cm、 d:13.0cm、 bd:4.6cm 376g

大阪市立東洋陶磁美術館（Ngiam Thong Kin氏寄贈）

20

陸金喜（1972～）

ゆてきてんもく 「とうよう」めい

油滴天目（「東洋」銘）

YUTEKI TENMOKU, with inscription TOYO

2016年

h:7.2cm、 d:12.7cm、 bd:4.0cm 361g

大阪市立東洋陶磁美術館（Ngiam Thong Kin氏寄贈）

21

陳旭（1984～）

しちさいぶっこうてんもくさん

七彩仏光天目蓋

SHICHISAI BUKKO(QICAI FOGUANG)

TENMOKU SAN

2017年

h:7.4cm、 d:13.0cm、 bd:4.0cm 351g

大阪市立東洋陶磁美術館（Ngiam Thong Kin氏寄贈）

22

陳旭（1984～）

しちさいぶっこうてんもくさん

七彩仏光天目蓋

SHICHISAI BUKKO(QICAI FOGUANG)

TENMOKU SAN

2017年

h:7.5cm、 d:13.0cm、 bd:4.0cm 318g

大阪市立東洋陶磁美術館（Ngiam Thong Kin氏寄贈）

23

李春和（1956～）

ゆてきてんもく

油滴天目

YUTEKI TENMOKU

2016年

h:7.2cm、 d:11.9cm、 bd:4.7cm 305g

大阪市立東洋陶磁美術館（Ngiam Thong Kin氏寄贈）

24

李春和（1956～）

かつさいたいぎょくてんもく

活彩太極天目

KASSAI TAIKYOKU(HUOCAI TAIJI)

TENMOKU

2017年

h:7.7cm、 d:10.8cm、 bd:7.0cm 447g

大阪市立東洋陶磁美術館（Ngiam Thong Kin氏寄贈）

25

彦十蒔絵・若宮隆志（1964～）

みたてしっき ゆてきてんもく

見立漆器 油滴天目

LACQUER BOWL LIKENED TO

YUTEKI TENMOKU

2020年

h:7.5cm、 d12.1:cm、 bd:4.2cm 78g

個人蔵

26

彦十蒔絵・若宮隆志（1964～）

みたてしっき このはてんもく

見立漆器 木葉天目

LACQUER BOWL LIKENED TO

KONOHA TENMOKU

2020年

h:5.4cm、 d:14.7cm、 bd:3.4cm 64g

個人蔵

27

藤澤秀行（1972～）

ようへんてんもく

曜変天杓

YOHEN TENMOKU

2019年

h:7.3cm、 d:12.2cm、 bd:3.8cm 76g

個人蔵

出品リスト
List of Works

[凡例] h:高さ、d:最大径、 bd:底径、 重さ

特別出品1

彦十蒔絵・若宮隆志（1964～）

みたてしっき ようへんてんもく

見立漆器 曜変天目

*LACQUER BOWL LIKENED TO
YOHEN TENMOKU*

2020年

h:7.2cm、d:12.2cm、bd:3.6cm 65g

個人蔵

特別出品2

彦十蒔絵・若宮隆志（1964～）

みたてしっき ようへんてんもく

見立漆器 曜変天目

*LACQUER BOWL LIKENED TO
YOHEN TENMOKU*

2020年

h:6.9cm、d:12.5cm、bd3.6:cm 44g

個人蔵

特別出品3

彦十蒔絵・若宮隆志（1964～）

みたてしっき ようへんてんもく

見立漆器 曜変天目

*LACQUER BOWL LIKENED TO
YOHEN TENMOKU*

2020年

h:6.4cm、d:12.1cm、bd:3.4cm 64g

個人蔵

特別出品4

藤澤秀行（1972～）

ようへんてんもく

曜変天杓

YOHEN TENMOKU

2020年

h:6.4cm、d:12.1cm、bd:3.4cm 132g

個人蔵

[デジタル図録]

大阪市立東洋陶磁美術館

特集展

「現代の天目—伝統と創造」

企画構成・編集・デザイン：小林仁（大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理）

編集補助：宮川典子（大阪市立東洋陶磁美術館学芸員）

写真：小林仁

表紙デザイン：上田英司（シルシ）

英文監修・翻訳：川西典子

発行：大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市北区中之島1-1-26

©2020 大阪市立東洋陶磁美術館

発行日：2020 年9月27日

本書の無断転写、転載、複製を禁じます



大阪市立東洋陶磁美術館
The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

[DIGITAL CATALOG]

The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

Featured Exhibition:

“Modern *Tenmoku*—Tradition and Creativity“

Planning, Editing & Design: Kobayashi Hitoshi, Chief Curator, The Museum of
Oriental Ceramics, Osaka (MOCO)

Editorial Assistant: Miyakawa Noriko, Curator, MOCO

Photograph: Kobayashi Hitoshi

English translation & Supervision of English texts : Kawanishi Noriko

Publication: The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

1-1-26 Nakanoshima, Kita-ku, Osaka, 530-0005, Japan

© 2020 The Museum of Oriental Ceramics, Osaka

Date of Issue: September 27, 2020

All rights reserved.